

刊夕日九十二月八



定額一部 一ヶ月五拾銭 郵費五拾銭
廣告料 五拾二文字 一行 金五拾銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常磐毎日新聞社
電話 六三〇
印刷所 常磐毎日印刷株式会社

北満便り

日本憲兵隊
草野村出身
邊渡美太郎
保安局及
保衛團の警
備状況

寧安縣公署の指揮に屬する公安局及保衛團は、公安局全員約四百名、縣内五區に分ち、分局並に分所を合し十四個所、保衛團は定員八百名にして二十三個所に配置され居たり。

而して寧古塔の警備人員は公安局の下に第一分局あり、市内は四分所に分れ約二百名、又保衛團は總隊部ありて歩、騎を合し約百名更に縣公署内にある保安騎馬隊を加へ總數約三百二十名ありたり。

るねい古塔の状況

滿洲事變の勃發に伴ひねい古塔地方の人心動搖漸次對日感情不穩の氣勢を醸しつつありたるも、鎮守使趙芷香(陸軍中將)の態度觀望的にして、又隸下軍隊の表裏的抗日蠢動を看ざりしが黑龍江に於ける馬占山の敗走、滿洲國の成立の經過に從ひ、趙司令新政に服従の態度を闡明とするに及び、趙の部下にして國境ポクラニチナヤ駐屯の張治邦、密かに抗日策動を開始し之に使唆されたるるねい古とう駐屯第一營第三連長 頂元英、本年二月中旬部下を擧げて兵變を起し、曩に豫て趙司令の態度に不満を抱き、匪賊討伐を口實として東京城方面に到り、部下の集結をなしつつ小城子方面より來るべき王徳林の到着を待ちつつありしねい安縣保衛團隊長劉萬魁の部隊に合し事態はボクラニチナヤ方面に於ける張治邦、東京城方面に於ける王徳林並に劉萬魁等の反新政府反日態度、彌々積極化さんとする。周圍の情勢により遂に趙司令は當時哈爾濱に入城中なる皇軍の出動を懇請するに至り爰に於て三月七日〇野〇團の入城となりたり。

文藝募集

突然彼女の傍に聲がした驚いて立上つてみると、此間「叱られて」を歌つてゐた道夫だつた。彼女は赤くなつて挨拶した。
「その田は僕んところでの隣の隣があなたのですヨ」
道夫は笑ひ乍ら言つた。
「アラ、妾どうし様——御免なさい。ほんとうに知らなかつたのですもの」
彼女は泣き出した氣持で蒼くなつた。
「何にいゝんですヨ。同じ様な田ですからよく違ふのです。どう、僕も今



結婚前後

山田案々子

村を離れた作場道を田一枚おりて、恰も耕地整理した様に各々面積半畝宛の田が五枚並んでゐる。こゝは以前、原野で村の共有地だつたのを村の重立が買つて開墾したのだつた。
もう太陽は大部西へ傾いて、廣い野面にはテラホラ家路を辿る人が小さく動き出した。
彼女もこの小さい田切りで今日一日の仕事を終へるのだつた。
「お疲れでせう御精が出ますね。」
突然彼女の傍に聲がした驚いて立上つてみると、此間「叱られて」を歌つてゐた道夫だつた。彼女は赤くなつて挨拶した。
「その田は僕んところでの隣の隣があなたのですヨ」
道夫は笑ひ乍ら言つた。
「アラ、妾どうし様——御免なさい。ほんとうに知らなかつたのですもの」
彼女は泣き出した氣持で蒼くなつた。
「何にいゝんですヨ。同じ様な田ですからよく違ふのです。どう、僕も今

藤沼醫院
平町紺屋町
電話五〇七番

仕事に來たのです。僕の田を一緒にとつて又あなたのも取りませう。時にあなたの安治君の體の具合はどうです
と青年は快活に云つて田圃に入つた。
「いゝのか悪いのかどうもはかばかしくないので困ります」
彼女は細い聲で答へた。
彼女と彼は並んだ。烈しく泥を掻き廻す彼の手、細く動く彼女の手。その手と手が時々思はず觸れる。二人はハツとする。
肩と肩とが擦れ合ふ。薄い着物を通して異性より受けるむせる様な快い感覺その度に彼女の胸は警鐘が亂打される様。嬉しい様で恥かしい様で、又恐ろしい様でもある。
「サア濟んだ」
と青年は哇へ上つた。
今正に太陽は地平線に沈まんとして、地上のあらゆるものは唯一面に金色だつた。
「オ、太陽が沈む」
青年はつぶやく様に云つた。
彼女はうなだれて青年の後に從つた。
夕陽を沿びた二人の姿はミレーの晩鐘の様だつた。

御用命は總て印刷物の御用命は總て印刷物
常磐毎日印刷株式會社
電話三六〇番

御料鹽豚
田町三三三屋
電話三三三番

世界一のカフェ
月光に夢を追ひ涼風に戀を語る
若人の胸をよるに高鳴る
美給揃つてウルトラサービス!
シャンデリヤ淡き
鬱金の美酒
涼味満喫の境地!

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

お醤油は……ヤマフル
醬油味噌
たひら正宗
鰹節 食料品
鹽屋
合名會社
福島縣平町電話營業部二釀造工場
明治生命警城代理店 山崎與三郎

月曜言論

金の死蔵

矢吹元女教員の死後、其の遺産をめぐつて、近親者が爪を磨ぎ、牙を鳴らして相食む醜態を天下にさらし、遂に刑事問題を惹起して益々其の争ひを深刻ならしめて居る。

矢吹教員の遺産數萬金は同女が此の便利な世の中にランプを灯し、骨を削り、肉を殺いで貯めた文字通りの血の出る様な金である。聞く。其の刻苦精勵の非凡さは敬服するの外はないが金は貯める丈では死物を抱くと同様である。金は使つてこそ、初めて所謂生き錢としての眞價を發揮するのである、同女は貯める爲めの金である事を知つて、使ふ爲めの金である事を忘れ

たらしい、そして遮二無二貯める事のみを骨身を細らせ、病を得ても醫藥も受けず遂に天壽を全ふする事が出来なかつた、のみならず平和な近親者に離反の種を残すに至つたのである。

現代の經濟道徳は『大いに取つて、大いに使ふ』處にある、矢吹元女教員の金の死蔵は吾人に或る種の教訓を與へて止まない、が而し何が彼女を斯くせしめたかを靜かに考へる時、たゞ單に、其の死屍に鞭打つ批難は許されぬものがあると思ふ。

四倉植田兩市場共に

取引大活氣

昨年よりも四五圓高に

未だ々々奔騰氣配横溢

蕪市況活潑の折柄、廿七日開場せる四倉市場並に昨廿八日より開場せる植田市場はいづれも近來にない活氣を呈し昨年廿七八圓臺のものが卅一圓臺に取引されて居るが本年の晩秋籾が出廻る頃には四五圓位迄騰貴するものと見られて居ると尙郡下初秋籾の出廻は九月一日頃であるが昨廿八日の兩市場取引は左記の如くである

△白籾七百五十三貫(最高)四十二圓(最低)三十一圓(買馴)三十七圓八十錢(三十一掛)

△植田蕪市場 △白籾四百五十貫(最高)三圓三十八錢(最低)二圓八十錢(買馴)三圓六十二錢

磐中軍大勝

入山對水泳競技

既報磐城中等學校對入山炭礦の水泳大會は昨日午後一時より入山プールに於て行れたが磐中軍良く奮闘し四百米を敵に許したのみで他は全部一着を占め九四對七〇のスコアにて大勝した

日午前十時より村長改選に關する村會を開會したが元村長酒井勝男氏と現助役酒井賢吾氏との兩派が相争ひ當日の村會は流會に終つた

△黄籾三百貫(最高)三圓六十二錢(最低)三圓三十錢 (買馴)三圓三十二錢(三十三掛)

既報平法曹團對磐城セメント會社の庭球試合は昨日午前九時よりセメントコートに於て行れたが戦績は左の如く四對三にて平法曹團の勝に歸した

セメント對 昨日庭球試合 平法曹 三對二

村長改選

流出組合

磐崎村で

既報濱三郡木炭移出商組合創立委員會は昨廿八日午後一時より團體事務所樓上に開かれ規約制定を行つたの

縣青年体本郡の陣容

反省と短評

九、結論

以上簡單に各種目を一睨したが要するに非常な進歩であり偉大な躍進である殊にジャンプ、スロー、スプリントには群雄カッキョで入賞者は他の何れの郡よりも

選手として堂々縣大會へ臨める土ばかりである、特にリレーに就いては選衝に一苦勞の形であり、二組出場しても一二位は確實である、四つの縣新記録と、二つのタイ記を生んで意氣

天を衝く概がある、これ皆石城に於けるスポーツの進展を裏書するものである以上の選手メンバーで縣大會にはトラックで三選手権ファイナルで二選手権は自信がある、次第である、總點に於て昨年同様三十三點位の絶体多數で壓倒的勝利は何人もうたがひを入れない所であらう唯武道の成績

で近く組合員の募集に着手する事になつたので創立總會は九月中旬頃に行はれる模様である

法曹接戦

昨日庭球試合

既報平法曹團對磐城セメント會社の庭球試合は昨日午前九時よりセメントコートに於て行れたが戦績は左の如く四對三にて平法曹團の勝に歸した

平法曹 三對二 (松崎 3-4) (石井 4-2) (海野 4-2) (山城 4-2)

昨日の武術大會

出場者必死の健闘振り

既報石城在郷軍人聯合分會主催の武術大會は昨廿八日午前九時より平商業學校々庭に於て銃劍術四十三名軍刀術廿一名の出場選手に依つて必死の試合を行つた結果入賞者は左記順位である

- △銃 劍術 吉田榮一郎(大野)大和田信(夏井)平山政一(勿來) 鈴木七郎(小名濱)吉田直壽(山田)鈴木要(草野)丹野福彌(磐崎) 鈴木義孝(好間)竹原清(上遠野)野木秀文(平窪)

- △軍 刀術 加藤幸一(好間)片寄平三郎(平)藤谷久太郎(高久) 根本要一(大浦)齊藤義弘(平)本田茂重(夏井)矢内朝雄(好間)

未提出は

卅一日に検査 既報平町の度量衡器検査は

去る廿七日より卅日迄平署會議室に於いて行はれて居るが平町役場では種々な事情の爲め受檢しなかつた未提出者に對しては特に卅一日午前八時より町役場會議室において受檢せしめ違反者の防止に努める由

排球練習

平第二校で

既報平第一小學校野球部に對しては去る二十日より係指導の下に練習中の處本日を以つて終了し陣容も整つたので今秋十月安積中學校主催の下に郡山市に於て行れる縣下各小學校對校野球大會に出場すると

平町人事

回出生

△研町四吉村安次郎氏六男 寬 長橋町二五加澤恒保氏長女泰子 △北目町一〇九小谷野衛政氏三男勇

看護婦急派の求めに應

平町南町

平看護婦會

電話三〇七番

上田科醫院

平町南町 電話二一九番

木炭を使用し

動力を起す實驗

木炭同業組合と山林課が 協力して需要増加の宣傳

濱三郡木炭同業組合では木炭需要増加宣傳の爲め縣山林課と協力して

來月四日 午後一時より大町地内元博覽會第一會場跡で木炭瓦斯發生機の實驗會を開く事になつたが同機は木炭に依る動力機關として自動車船舶其他に使用されるもので同機設備の自動車とガソリン自動車を比較するとガソリンで十哩走る處を木炭瓦斯發生機は木炭一貫目で 同哩を走りガソリン一ガロンが四十錢なるに反し木炭一貫目は十錢と云ふ相違があり殊に爲替相場で下落の影響からガソリン代の騰貴しつゝある昨今木炭利用は非常に經濟的であると注目されつゝある折柄の爲め當日の實演會は各方面より期待されて居ると

九時頃内郷村字宮坂の知人高木傳(三)と連立つて同村字町田のカフェー世界方にて飲酒せる際金銭問題から組打を始め椅子等を破損せし儘逃走したので目下平署で取調中

染色講習盛況 既報平女子青年團にては昨日より齊藤よし子氏指導の下に染色講習會を開始したが出席會員數は七十餘名にて頗る盛會である

鐵路の錆と化した

惜しむる、谷口氏

尺八の妙技も 今では早無しく

昨曉極度の神經衰弱から前途ある身を鐵路の錆と化せしめた平町二丁目谷口樓主人谷口長次氏(三)は平商友會長、平青年團副團長、料理屋副組合長等の要職にあり濃厚篤實の士にて將來平町における有爲の人材たるべしと囑目されて居た丈に非常に惜まれて居る殊に尺八の妙技は佳童の雅名と共に地方斯界に冠たる位置を占め早くから豊かな天分を推賞されて居たが再び其の妙音を聴く能はざる嘆きは一方ならざるものがある因に葬儀は卅一日天理教に

依つて執行さるゝと 葬儀は三十一日に

放火公判十日 既報 双葉郡熊町村大字石澤字大

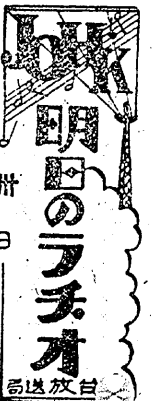
遊興代を稼ぐ氣か

歸りがけに金時計

大谷刑事が追跡して

格闘取押ふ

石城郡平窪村字松川居住煉瓦職早川富信(三)は去る廿七日午後九時頃平町南町飲食店柳屋方にて遊興し同十二時頃歸宅せんとした際家



今晚も明日も北 東の風晴れたり 曇つたり

今晚の部

後六〇〇(子供の時間) お話「この秋の健康」吉田松一
後六三〇 夏期英語講座(二十一)毛利八十太郎
後七三〇 産業ニュース
後八〇〇 長唄「五色の糸」高橋さくよ外
後八三〇 獨唱(新交響

藏谷地二百一十一番地農青戸初衛(三)に對する放火事件公判は延期中の處來月十日午前九時より平支部公判廷に於て開廷する事に決定した

トラツクと衝突

人夫胸骨を折る

けふ午後二時頃の出來事

本日午後二時半頃石城郡内郷村大字綴居住平土木監督所人夫中村二郎(三)が同村大字御座字秋山内國道にて土車を輓いて居た際疾走し來た石城郡植田町遠藤次郎方運轉手須賀三郎(三)運轉のトラツクに衝突肋骨を折り人事不省に陥り桑原接骨院に擔ぎ込まれたが急報に接し平より係官出張トラツク運轉手を取調中

「子供の生活の見方」(東京) 文理科大學教授文部省博士久保良英
前七〇〇 エムベラント講座(十三)日本エムベラント學會國際常設代表遠藤静太郎
前七三〇 夏期兒童講座「戸將車」青森縣師範學校訓導小山内定雄
前九一〇 料理献立「鹽蛙の酒焼」松本良雄
前一〇三〇 家庭講座「造花に就て」小島專甫
後一〇〇五 浪花節「伊井直人」東武藏
後二〇〇 趣味講座「初

秋の花草園藝」尾崎哲之助
後六〇〇(子供の時間)
後六二五「カレント・トピックス」ハロルド・バスター
童話劇「迷子の蛙」J.O.A
K唱歌隊
後六三〇 夏期英語講座(二十一)鹽谷榮
後七三〇 講演「新興國滿洲」松岡洋右
後八〇〇 放送喜歌劇「笑へ海賊」徳川夢聲外
後九〇〇 講談「王妃のお百」旭堂南慶
後九三〇 洲よ満り

天理教の

婦人講習

平古鍛冶町天理教會にては明後三十一日午後二時より同所に於て婦人大講習會を催すが講師は本部特派員澤田たま、山本よしの兩先生である

電話新設

右新設致しましたから御利用願上ます

有隣生命保險平代理店 東洋白土會社常販販賣部

佐々木龍若

平町四軒町一八

佐々木町議

電話を新設 四軒町町會議員佐々木龍若氏は今回有隣生命平代理店の外に東洋白土株式會社の常販一手販賣店を引請け同地方の米穀商に便宜を圖る事となり本日より電話二九八番を自宅に新設した

組打喧嘩

カフエーで 器物を壊して逃走

平署の取調

石城郡湯本町字八仙居住坑夫鈴木春治(三)は廿七日夜

幕末剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

第三百三十七席 眞庭念流の達人櫻井五助

遂に峰吉を討つ

峰吉は惣六を相手に話しながら酒を飲んでゐたが、夜は次第々々に更けて来た。ゴロといふ海鳴り、峰「寂になつたナ、もう酒もこの位にして寝るかナ、オイ爺さん、表の締りをしておくれ」

惣「わたくし共は締りはいたしません、爺婆の二人暮し貧乏といふことは知れてゐますから泥棒などは入りません」

峰「さうでもあらうが今夜は質の悪い泥棒が来るかも知れぬえ」

惣「さうでございますかナ、お前さんの首を狙つてゐる奴がある、そんな物を取りに来られては大變だ、ドレ締りをいたしませんか」

立つて来た惣六、表の戸を閉めやうとした時、ヅカ／＼と踏込んで来た侍二人、惣六はこれを見て

惣「お前さん方は何者でございますか」

要「俺は秋山要介と申す者だ、峰吉に用事があつて来た」

これを聞いたみね吉がこれは大變と裏手から逃げやうとした、其時岸丈右衛門

が飛びかゝつてみね吉を押へ付け、此方へ来いと引立て、振拂つて逃げやうとする前に廻つた秋山が

約束した以上はこれを履行いたさねばならぬ、覺悟しろ」と云ひつゝ、スラツと引抜いた、みね吉ももうこれまでと決心して同じく脇差を引抜いて斬つてかゝつた、秋山要介は故意に受太刀なつて表へヒラリと飛び出した、續いてみね吉も躍り出る時、に秋山がエイツと一聲横に拂つた、みね吉は右の足を高股から斬られてパツパツと仆れる、それを見て要介が



要「イヤ林藏の親父磯五郎に貴様の首を取つて来ると

いお前さんは侍でありながら理窟の判らぬ人だ、わたくしが林藏を殺したは親分の敵ゆえ、シテ見ればお前さんから怨みを受けるは筋違ひ、どうぞ助けて下さいまし」

丈「承知いたしました」と脇差を押へて引立て小刀にて首を掻切つた、それを居酒屋の惣六が見てゐたが

惣「オヤ、とうとう峰さんも首になつてしまつた」

要「コレ、爺奇麗な水を持つて来て呉れ、この首を洗ふ」

惣「へエ首の湯灌をなさいますか」

と云ひながら手桶に水を汲んで来た、要介はこの首を洗ひ豫て用意をして来た白布にて丁寧に巻き

要「爺、その樽を賣つて呉れ首桶の代りに致す、よし／＼コレ／＼」丈右衛門、首をこれへ入れろ、それから搥で漬けて置け」

丈「ぢいさん鹽を持つて来い、さういふものを食べるものはあるまいこれは遠方に届けるそれゆゑ腐らぬやうに塩で止めて置く、イヤ爺、無ぞ驚いたであらう、これにて跡を清めろ」

と小判二枚を與へ峰吉の胴を海に投げ込み松岸の權右衛門の許に來て峰吉を斬つた事を告げ自分は此處に逗留して丈右衛門をして武州入間郡赤尾村の磯五郎の許へこのくびを届けました

磯五郎は秋山師弟の厚意を謝し

磯「これで件も佛になれませう」

とそのくびを上尾の柏座日來院にある林藏の墓に手向けて後このくびを厚く葬りました、ところどころと申上げますが、林藏の法名は即達西臺信上、是等の事はこの講談を御愛讀下さる上尾の佐藤徳隆師より知らせして下さいました、又林藏が殺されてゐた時に泊つ

てゐた上尾の足立屋は子孫も絶え、その宅地は今も他人の所有になつて居るさうです、尙此他にも参考になることをお知らせ下さいまして大いに利益を得ましてございます、これは厚くお禮を申して置きます、借て秋山要介は下總の松岸にゐたが丈右衛門の歸るを待つてあれより常陸に參りそれより奥州に入り白河から會津地方を漫遊して翌年の三月江戸に戻り、下谷坂本に道場を出して居る門人杉山五郎兵衛の許に一時寄寓いたしました

たが人湯の戻りに石に躓いて倒れたが因で半身不随俗に申す中風症に罹りました。

武藝に達した者は躓いてころぶやうな事はないが病の出る時は仕方がない。

てゐた上尾の足立屋は子孫も絶え、その宅地は今も他人の所有になつて居るさうです、尙此他にも参考になることをお知らせ下さいまして大いに利益を得ましてございます、これは厚くお禮を申して置きます、借て秋山要介は下總の松岸にゐたが丈右衛門の歸るを待つてあれより常陸に參りそれより奥州に入り白河から會津地方を漫遊して翌年の三月江戸に戻り、下谷坂本に道場を出して居る門人杉山五郎兵衛の許に一時寄寓いたしました

梅毒 淋病 皮膚病 婦人病

林病 腸胃病 腸胃病

院醫科 七〇一話電

松村 腸胃病 腸胃病

平町南 町南平

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南 町南平

電話一七〇

貸切の御用命は!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ (マツサキ)

三九二タクシーへ!!!

毎度御ひいき 有難ふ御座ります

うなぎの御用命は

うなぎ 奴

平町田町(電話二二番)

ホール御座敷の設備あります。皆様の御立寄を!!

平新川町十九

木村病院

電話一六四番

産婦人科 院長 木村寅次郎

婦人科 醫學士 内木宗八

内臓外科 泌尿器科

金銀高價買入

根本時計店

平町田町 丸新デパート